

北木中

- 地図のアップ→日本地図から寄っていく方が分かりやすい（テクニックではなく“思いやり”）
- 船の字幕をゆっくり（見る人は初めて見るのだから）
- 千鳥のアップから引いて、フラヘ（伝えたいことを明確に）
- 文字数が多い字幕→どこを削るか、絵が語っていることは文字にしなくて良い、縦書きも活用
- 文字の大きさも注意
- 景色を文字が邪魔している→邪魔にならない場所、見れば分かることは文字にしない
- 須磨学園→ここでは大事な情報ではない→「他の地方からも…」

六島小

- ナレーションのセンテンスが短くて良い
- 島の紹介の仕方のコツ＝画面に船を入れている
- 動きを出す（カメラの動かし方の工夫）

例

- 島小屋の看板→島小屋に振る
- 灯台の看板から階段を上がっていくの 等
- 最後のシーン（着地）少し間延びしている→リズムカルにするとピリッとする・まとまる→一番気持ちのよいパターンを撮って見つけてみる
- 字幕が少ない＝映像の印象が強く残る

白石小

- カメラの映像が不安定？（坂道）なめらかな動きが望ましい→足場がしっかりしたところで、脇をしめて構える
 - どうしても無理なら「写真」で
- 岩の映像に必要な最低限の情報を入れる（島以外に人にはわかりにくいので）
 - この岩のどこを見て欲しいか、みんなで相談して撮影する
 - 岩から離れて風景を見せる
- しめくり方をもうひと工夫

吉田小

- 神社が見せたい，でも字幕で見えない
 - 位置を変える
 - 「お祭りののぼり」を入れて，神社の絵にかぶる「祭り」の文字は削除する
 - 保存会の人ジャンパー背中の文字を利用する
- 現場ですぐ撮り始めるのではなく，しばらくその場の様子を眺めてから
- 薄い大きな字幕→せっかくの小さい花が見えにくくなっている
- 貝殻→寄った映像が欲しい（手元のアップのシーンを挿入する）
- BGMを変える，止める，…=よそ見している人を連れ戻す効果

笠岡小

- オープニングの字幕を伸ばす（時間）せせらぎの映像の入りまで
- 正門に入るところ＝ここが何なのか，を字幕で
- 昔の映像になった瞬間に音楽を変える 等
 - 現代に戻ったら音楽も戻す
- 敬業館は字幕ではなく額で表す→3人に引く
- 映像は「足で」撮る，実際に動いてみる→カメラ位置，立ち位置，アングル，フレーム，…
- 最後の場面，音楽を変えるタイミングを合わせる
 - 学校の「シンボル」を伝えたい→シメになる言葉を字幕で入れる

金浦中

- 「問い」で始めるは良い，配色が最も見にくい印象→いろいろ試してみる（変更）
- 小さい文字，たくさんの文字，読み切れない→文字を大きく少なく
 - 「おしぐらんご」不要，「源氏方と平家方が和船で早さを競う」等
 - 字幕を別のシーンへ移す
- 字幕のみのシーンより，実際の写真等を背景に
- 「写真（静止画）＋字幕」ではなく，できれば動画でインタビューを撮影し，入れる
- 最後のメッセージ「ぜひ金浦へ」→映像を入れて「行ってみたい」と思わせたい

中央小

- いろいろ撮ったシーンを，うまく組み合わせている。カメラワークの工夫がよい。
- 字幕でカブトガニを隠さない
- 緊急事態の演出→カメラワークは良いが音声聞き取れない
＝字幕で説明を入れると
 - 音楽を切って「警報音」うまい。放送を字幕で，必要に応じて色も変えて，…
 - 館内放送→上へ，等の工夫も
- 恐竜の動いている様子→恐竜が迫ってくる感じに撮影する
(カメラを回しながらできるだけ近づく 等)
- 溶岩のとり方もいろいろ工夫してみる。
- 言葉と絵を合わせる(言葉と絵の合わせ技・芸術)。
- ラストシーンは恐竜を大きく入れて，3人は真ん中でなくてもいい。

大島中 1

- テンポが良い。
- 字幕に「ふりがな」を入れる“思いやり”
 - はてなは出た瞬間に解消を
- 階段を登るシーンがあって、到着、が良い。2秒ぐらいで創り出す。
- 字幕の文字、もう少し大きい方が良い。
- インタビューは「感情や思い」を聞いた方が良い。
 - もし撮影できなければ「構成」「順番」を変える。「神輿です」の言葉の直後に「神輿のシーン」を。
 - 情報は階段を一段一段上がるように伝える。分かりやすさ。
- 「海へ」の字幕は、映像で分かるので、字幕では別の情報を表す。

大島中2

- 全体的に字幕の文字が小さい→キーワードだけにする, 2行にしてサイズを大きくする, など
- セリフを字幕にするときは, 表現を揃える
- 別の表現として
 - ちゃんと自慢の魚を見せたい→カマスとか, …, と字幕を変えていく
 - 御嶽山→ここです, …など
- カブトガニの字幕が早く出すぎ→タイミングを合わせる (おじさんに失礼, 話し言葉の感動が薄れる)
- カブトガニ→海のシーン つながりが唐突
 - 海岸でカブトガニ→海の風景へパーン
- つながりをもうひと工夫

大島中3

- オープニングのテンションが低め？（視聴者の目を見て、必要なら再撮影）→見る人がいっしょに行きたいと思うような構成に
- 看板撮影時のカメラワークを再検討。
 - 看板の何を見せたいか→例 「国指定」の文字から全体を引く等
 - 耳から入る情報（ナレーション）と目から入る情報（クローズアップした映像）は一致した方が良い
- 画面合成がうまくいっている
- 人骨→一番目が行くのは？「抜歯した成人男性」→歯を見せるようにしたい＝アップ等
- 最後の映像がベストかどうか、再検討を

大島中4

- 音声聞き取りにくいところの修正を
- お城の跡だということが分かるような撮り方を足で探す
 - 撮影する順番などを工夫する、「自慢」の映像として
- 傘踊りのシーン，音声の切り替え，実際の撮影，だんだん全景が見える，…良い
- 4人で相談したシーンから始まる→ラストまでに4人の映像が欲しい＝ストーリーができる
- いろいろ作って選ぶ→表現の面白さを味わって
- 大島でしか撮れない映像がいい（東京でも撮れる，ではなくて）

大島中5

- 御嶽山の全景撮影，カメラワークがガクガクしているのを修正
 - 再度撮影するなら，特徴的なものから引いていく，てっぺんにパン，…等いろいろやってみる
- 当時はいつか，説明する（？をできるだけなくする）
- 他地域の人にわかりにくい→字幕で説明，実際に映像が出てくるまで大伽藍の名前は伏せる，等
- いっしょに歩いている感じの映像は良い
- 量剛寺の映像や説明をていねいに
 - 量剛寺の名前が初登場なら，ナレーションを変える。
 - どうやって撮ったら，見ている人が想像力のスイッチを入れられるようにできるか，と相談し，工夫する
- 最後の景色は，カメラワークを安定させて